

日本バプテスト連盟

憲法改悪を許さない

私たちの共同アクション

# ニュースレター

2018年 11月 7日 No.51

さいたま市南区南浦和 1-2-4 日本バプテスト連盟



## 国会を監視する

泉バプテスト教会 城倉 啓

安倍晋三内閣総理大臣の、自由民主党総裁三選が決まりました。政権与党である自由民主党にとっては、各省庁の大臣・副大臣・政務官の人事と、党役員の人事は総合的に定められます。改憲の議論においては、自由民主党役員の人事、特に自由民主党憲法改正推進本部長と、憲法審査会の筆頭理事が誰になるのが重要です。

自民党改憲推進本部長には、安倍総裁と同一年の盟友・下村博文が就きました。また、衆議院憲法審査会の筆頭理事には新藤義孝元総務大臣をあてました。どちらも首相の側近中の側近です。新藤筆頭理事就任は、野党との協調路線を採っていた中谷元筆頭理事との交代でもあります。また、国民投票運動におけるテレビCM規制の厳罰化において、野党とも協力して超党派議員連盟を結成している船田元理事も、交代させられています。この布陣は、ごりごりの中央突破の構えです。

メルマガ10号（9月 10 日配信）で、「改元改憲」の可能性について報じました。統一地方選（4/21 投開票）後に国会が改憲発議を行えば、7月に行われる参議院選挙の選挙運動期間と重ならない形で国民投票運動期間（60 日以上 180 日以下）が確保されます。そうすれば選挙運動（原則規制）と国民投票運動（原則自由）の食い違いを無視できます。

「新しい時代には新しい憲法を」のようなスローガンに惑わされてはいけません。わたしたちは改元改憲を天皇の政治利用の一つと捉え、これに反対します。むしろ、選挙運動と国民投票運動を合わせて考えて、共通のルールを与野党共に策定していくことを望みます。どちらも原則自由であるけれども資金力のある陣営に有利な「広告による運動」を禁止／制約してはどうでしょうか。

## バプテスト憲法フェスティバル in 九州

### 平和憲法・平和宣言に押し出されて

2018 年 8 月 25 日に大名クロスガーデンを会場に「バプテスト憲法フェスティバル」が開催され、九州の 4 地方連合から 74 名の参加がありました。

報告として集会で登壇くださった方々の「リレートーク」をお届けいたします。

### 福岡から平和を！沖縄の人々と共に ゴスペルアクション in 福岡

福岡キリスト教会 田宮宏介

沖縄普天間基地でゴスペルを歌う活動を知り、福岡でもやろうと 2013 年 9 月 23 日に、ゴスペルアクション in 福岡の第 1 回目の活動を行いました。ところが、ケニアのナイロビで 21 日にテロ事件があったばかりで、アメリカ領事館前は日本の警察で一杯。10 人ほどの参加者全員が警察官から、職務質問、身分証明書の提示を求められるなど、さんざんな目に遭いました。その後、領事館前から、福岡市天神のソラリアパークサイド・ビル8階にある「福岡アメリカン・センター」前で行動することになりましたが、この場所は、九州最大の商業地区で、人通りも、地価も、九州最大と言われているところです。行動日を毎月第 4 月曜日の午後 6 時から 7 時までと決め、この時間は、何があっても、雨が降ろうと槍が降ろうと、雷が鳴っても大雪になっても（台風直撃の日もあった）、イエス様のご復活（パルサー）以外は絶対休まないと決め、幸いなことにこの 5 年間一度も中止することなく、この活動は続けることができました。

この会の目的はオキナワとの連帯とエール、福岡市民（ヤマト）への訴えかけ、そして、完全な非暴力抵抗運動のスタイルを拡散して、理解を求めながら、福岡における大きなネットワークを作り上げることにあります。キング牧師の公民権運動や、沖縄のガンジーとも呼ばれた阿波根 昌 鴻あはごんしょうこう こつじきさんの乞食行進などに示されるように、暴力に頼らない抵抗運動を多くの方々に示していくことは会の大切な使命です。暴力的な言葉によるアジテートもしません。5 年の間には、暴力的な威嚇した言葉で、論争を仕掛けてくる人もいました。しかし、そのようなときは、会のだれかがそっと進み出て、少し離れたところで、ゆっくりと丁寧、その人に会の活動を説明します。平和を願う心は誰も同じだ。争いは争いを生むだけだ。暴力の連鎖を暴力で止めることはできない。ゆっくりと丁寧に説明します。これはゴスペルを歌う以上に会の大切な活動であると思っています。

阿波根さんが沖縄の伊江島に作った「わびあいの里」には、次のような言葉が残されています。

「平和の最大の敵は無関心である 戦争の最大の友も無関心である」

マタイによる福音書 5章9節のみ言葉、

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

かみしめていきたい言葉だと思います。

沖縄から基地が無くなり平和が戻るその日まで、粘り強く、根気よく頑張っていきます。連帯してくださる皆さんに、本当に感謝です。



ゴスペルアクション in 福岡  
(2018年7月23日の活動の様子)



わびあいの里にある阿波根さんのよく口にした言葉

## 「憲法茶会紹介」

鳥栖キリスト教会 大久保幸代

こんにちは。鳥栖教会から来ました大久保幸代と申します。

家族は夫と子供が二人います。我が家は3・11の震災を機に、いまから6年半前に横浜から鳥栖へと移り住みました。それから、お蔭様でたくさんの良き出会いに恵まれました。特に今、子供を持つ母として、この社会に気掛かりなことが様々ありますが、そういう思いを共有できる方々との出会いに恵まれて、そして今いくつかの活動や、学びの場があたえられていることを感謝しています。

今日はそれらの活動の中の一つで、毎月、第一土曜日の2時から、鳥栖教会を会場に開かれています、「憲法茶会」の紹介をさせていただきます。

この憲法茶会のスタートは、自民党の改憲案を受けて、「憲法がもしも改正されたら一体どうなるのか」現行憲法と比べ合わせながら、丁寧に一年半かけて学んでいったのが始まりになります。当時は夜の時間帯で行われていました。その後今の昼間の時間帯になって3年半がたち、合わせると、この会はもう5年間続いていることになります。

参加の呼びかけは「どなたでもお気軽にどうぞ」という形で行ってきました。人数は決して多くはないですが、それでもこの5年間で少しずつ仲間が増え続けてきたことは、大きな希望だと思っています。

今現在メンバーとして14名になりました。そのメンバーの3分の2は教会員以外の地域の方々です。顔触れをざっと紹介しますと、お医者さん、学校の教師、鳥栖の女性議員さん、私のような普通の主婦、また現役から退かれてますます熱心に社会問題に取り組んでおられる方々等、様々です。また時には飛び入り参加もあって、一度は中学3年生の男の子が参加してくれたこともありました。そんな嬉しい飛び入り参加は神様からのサプライズだなと思います。

会の進行は野中牧師がリーダー的にいてくれますけれども、基本的には皆で何を学びたいかを考え、毎回フリートーク形式で進められています。昼間の今の時間帯になってからこれまでの取り組みを紹介しますと、まず伊藤真さんの「憲法問題 なぜいま改憲なのか」をテキストにした学び。その後2冊目として菅野完さんの「日本会議の正体」をテキストにした学び。その他、戦後文部省が子供たちに配った「あたらしい憲法のはなし」を読み合わせたり、時にはおすすめの映画や動画を観たりもしてきました。

憲法を学び始めて、最初にとっても驚いたことがありました。それは、「憲法は国家を縛るルールだ」という、いわゆる「立憲主義」を、私をはじめ、ほとんどみんなが知らなかったことでした。「私たちを守っていたのは国ではなくこの憲法」であり、「憲法は、私たちの普段の努力によって、国民の幸せの為に活用されるのを、ずっと、じっと待ち続けているのだ」

ということも改めて気づいたことでした。

最初のテキスト、「憲法問題」の伊藤真さんも「憲法は、私たち自身を幸せにするための道具です」と言っています。私たちは本当に憲法をそういう風にとらえてこなかったと思います。

そして私たちが今そのような自らの無知や無関心で、この現行憲法を活用できないまま手放すようなことは、子供たちの未来のためにあってはならないと強く思います。

その他の報告として、会の終了後、ずっと続けている、駅前での平和スタンディングがあります。また会ではいつもお茶代として参加費100円を集めていますが、感謝なことに毎回差し入れがあり、お蔭で使わずにたまった参加費で映画上映会も行なってきました。

次回の上映会は今ちょっと検討中です。候補はいくつかあって、例えば以前に会の中で視聴した「コスタリカの奇跡」という、軍を持たずに、その税金を福祉と教育に使うことで、平和と豊さを実現し、国民が生き生きと暮らしているコスタリカのドキュメンタリーの映画がとても良かったので、そんな映画も候補に挙がったりしつつですが、できればまた近いうちになにか映画上映会も開ければと考えています。

またその時には皆様にもお声かけさせていただきます。

最後に、年齢も、日々生きる場所も、そして信じる宗教も、みんなそれぞれに異なる仲間がこうして平和を創るものとして毎月集っている、そのまん中にはやはりイエス様がいてくださっていると思います。

神様がアブラハムに「あなたの子孫を星の数ほど増やす」と約束したように、今私たちにも「平和を創っていく仲間を星の数ほど増やすよ」と語り、こうして示してくれているのだと信じます。

以上で鳥栖の「憲法茶会」の紹介を終わります。ありがとうございました。

## 「こひつじの園ランチカフェ」

平尾バプテスト教会 平良民枝

こんにちは

今日の私の役割は、お手元に配らせていただいておりますが、昨年4月からはじまりました「こひつじの園ランチカフェ」の紹介をすることです。

平和を考える、憲法を考える時、いろんな切り口があると思いますが、地域に住むひとりのおばちゃんとして、足元にある普通の日常の中から、ランチカフェの働きを通して、考えさせられていることを紹介したいと思います。

ランチカフェは、誰でも一緒に、ご飯を食べることを通して、「みんな違ってみんな素敵！！」を体験する地域のみなさんの居場所づくりです。

私は、一緒にご飯を食べること、それが共に生きること、平和の原点と思っています。また、ランチカフェで起こったこの一年半のドラマから、平和は、限りなくあなたと、私は違うということ、障がいのある人もない人も、国籍や民族の違い、多様性を心底尊重しあうことだと教えられています。同時に、多様性は、摩擦を生じることであり、その摩擦を共に乗り越えていく作業であること、このことが、まさに、平和を構築していくことに繋がるのだとおもいます。

いつも、イエス様は、結果ではなく、プロセスをととても大切にされました。そして、混ざり合うこと、ぐちゃぐちゃ、混沌とした中にこそ、風が吹き抜け、息ができる空間ができて、絶対化がなくなり、相対化するチカラを養ってもらえる、あなたも素敵！そして、もちろんわたしも素敵！そんな普通のあたりまえの関係が育ち、かまなくて良い関係が生まれるのだと、ランチカフェから教えられています。

平和は、足元にある、そんな普通の日常の中に見つけることから、始まると思います。日本国憲法は、この普通の平和な生活、誰もが、自由に発言できて、日常の営みを、自分がこう生きたいという意志を大切にできるように、国民ひとりひとりを尊重しています。基本的人権、生存権、誰もが等しく教育を受けることができる権利、平和憲法であります。私の夫は、常々、日本国憲法は、聖書の次に素晴らしいものだといいます。私もそう思います。私たちが命をかけて守らないといけないものの一つと思っています。

ランチカフェに来られた二人の方の感想を紹介させていただいて、平和を考えるヒントになればと思っています。

#### □□息子と二人で参加されたお母さんのお話

『初めて息子をランチカフェに連れて行った時のお話です。「大丈夫、俺は学校で習ってる。障害者には優しくするように勉強してるから」小学校 5 年生の私の息子は自信満々な笑顔で言いました。その日は特別なランチカフェの日で、クリスマスランチショーを行う予定。初めて参加する彼に、障害者と一緒に食事をするよと伝えた私への返事でした。受付で 100 円支払った彼は 8 番テーブルへと案内されました。私の横ということもあり、ホッとしましたようです。私は他のスタッフのお手伝いもあり、席を外しました。しばらくして、ちらっと様子を見ると彼の顔がひきつっているのが分かりました。8 番テーブルでは彼の横の私の席に勝手に誰か座っているし、席を立ったり座ったり、テーブルを揺らしたり、急に大声をだしたり・・・彼は目を大きくして驚いて、私に不快感を訴えている事がわかりました。

司会者が「みんなで一緒にいただきますをするので待って」・・・という言葉も 8 番テーブルの仲間たちは聞く耳を持ちません。チキンのプレートが目の前に並ぶと、8 番テーブルの

子供たちは勝手に食べ始めてしまうのです。その中には大人の姿もあり、彼はさらに不愉快になっていきました。「A 小学校にはこんな人はいない、8 番テーブルありえん。もう帰りたい。食べたらずぐ帰る」と念仏のようにブツブツと言いながら、私を睨み付けるのです。8 番テーブルでは、みんなガツガツと食事をしていて、彼だけじっと目の前のご馳走とにらめっこをしながら、いただきますのその時を待っていました。向いの席の男の子が言いました。「アツアツで美味しいよ」その日はスタッフはバタバタ・・・、やっといただきますのその時がきた時には、彼の前のチキンのプレートはすっかりさめてしまっていたのでした。それでも、元フランス料理店のシェフの味はとても美味しかったようで、うまいと目を輝かせていました。大声を出す障害者やテーブルを揺らされることも時間が経つと慣れたようで、ありえなかったはずの 8 番テーブルの仲間たちとも打ち解けて、すっかり笑顔になっていました。 あんなに帰る帰ると言っていた彼が結局、最後の片付けまでの時間を過ごしたのでした。 帰り道・・・A 小学校の 5 年生だった私の息子が話した言葉をそのまま書きます。俺さ、学校で障害者のこととか習ってるとか言ったけどさ、何もわかってなかったんよね。障害者の、落としたハンカチも拾えなくて、マジか？こんなんも拾えんのか・・・と言ってしまったんよ。優しくしようと思っとったのに。でもスタッフの人が俺に「代わりに拾ってくれたら嬉しい」って言ったけ、拾って渡したら大きい声で何か言うんよ。多分、ありがとうかな。

・・・だから、俺、嬉しかった。俺も何か手伝える事があるならしたい。あれ、あのチキン、めっちゃ美味かった。でも、あれは温かかったらもっと美味かったやろうね。あの人たちが正解やったね。あの人たちとは、いただきますを待たずに先に食べてしまった・・・あの 8 番テーブルの仲間たちのことです。そして、次の月のランチカフェ。障害者と一緒に、かたる遊びをしている彼の姿がありました。』

#### □□重度知的障がいの弟と一緒に参加したお姉さんの話

『7 月に私は、23 歳の重度知的心身障がい者の弟と母と一緒に「こひつじの園ランチカフェ」に行きました。弟は、おもちゃの部屋でキーボードやボールで遊んだり、参加されている方の中を自由にウロウロして過ごしていました。その日のことで印象に残っていることがあります。弟が小さな子どもたちの真ん中に腰を下ろして、一緒におもちゃで遊んでいた時です。2 歳くらいの男の子におもちゃを渡してもらい「ありがとうお～」と言って、頭を優しく撫でる姿がありました。彼らはお互いに言葉ではなく何だか通じ合っているようでした。周りにいるお母さんたちも優しく見守ってくださり穏やかな空気が流れているのを感じ、とても嬉しくなりました。

ふと弟の小学生の時の出来事を思い出しました。弟は子どもの時から知的障がい児の通園施設に通い、養護学校（今の特別支援学校）に通い、今は作業所へ通っています。彼の住む世界は昔から家族と障害のある仲間たちで溢れています。彼が小学生の時、小学校で交流を

したいとお願いしたことがありました。しかし、交流はなかなかできず、一年生の時からお願いして何年かしてから交流できることになりました。内容は、一緒にご飯を食べて遊ぶということでしたが、交流後に先生が「こんな簡単なことなら、もっと早くからしておけばよかったですね」と言ったそうです。

「こんな簡単なことなら」何気ない先生の言葉ですが、この言葉が、障がいのある人の家族を傷つけることを先生は知らなかったんだと思います。もしかしたら、色んな不安が先生にもあり、ほっとして出た言葉なのかもしれません。2年前、相模原で障がい者が殺される事件がありましたが、彼は障がい者は、家族を不幸にするといいました。この先生も、この加害者の人も知らなかったんだと思います。障がいのある人との関わり方や、その人たちのことを。（相模原のことに関しては、他にも色々問題があるかと思いますが、根っこは一緒なのではと思います。）今回、彼が「こひつじの園ランチカフェ」でいろんな人の中をただ何をするわけでもなく、ウロウロしながら挨拶をし、子どもたちと一緒に遊ぶ姿を見ると障がいのある人と関わることは何も難しくないと思いました。挨拶をしてくれたら挨拶をしてハグをしたらハグを返して、ボールを投げてきたらボールを受け取り、また投げ返せばいい。こちらが不安になったり、ダメだよと止めたりすると相手も不安になり怒ってしまうこともあります。それって、みんな当たり前のことだと思います。

障がいのある人と出会うことがないと、彼らのような人のことを知らないので不安になることもあると思いますが、ちゃんと出会って、知り合えば、一緒の場所で過ごすことができるはずと感じました。私は障がいのある人が、普通にこの世界の中で共に過ごし生活できる社会になってほしいと思ってますがその前に、障がいのある人とない人が知り合える場所や機会が増えるといいなと思っています。』お二人の感想をいただいて、私は、改めて、ランチカフェに集まる多様なみなさんが、自由に過ごし、お互いの存在をまるごと喜び合っている様子、まさにそこには、久山のみなさんをはじめ障がい者支援事業所のこどもたちをはじめ障がいの多様性も加わっているからこそ、温かい空気、雰囲気があり、誰もがもっている優しさが引き出され、まさに平和の体現の時となっていることを感じています。

まさに、希望が生まれる場所です。学校が変われば地域が変わる、コミュニティが変われば社会が変わる。雑多、混ざり合うことの大切さを思います。一致は、同じ色になるのではなく、限りなく違う色を受け入れる、理解する、違いを楽しむこと、平和の土台を、ランチカフェから教えられています。

●「こひつじの園ランチカフェ」で検索して平尾教会のところをクリックすると、パンフレットや通信、毎月の様子を写真などで見れるようになっています。